

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	いのちまるごとプロジェクト事業
資金分配団体名:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	認定特定非営利活動法人ハーモニーネット未来
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	岡山県
事業対象者:	ひとり親家庭・生活困窮家庭・DV被害者・障がい児（者）

Version 3.2

日付: 2021年10月14日

## I. 事業概要

事業実施概要	<p>新型コロナウイルス感染の長期化に伴い、金銭・食、不安と先の見えない精神的な不安の両面に寄り添うことにより生まれる「安心感」の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎おなか一杯食べる幸せ、食べるものがある「安心感」の提供             <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生型子ども食堂・しんぐるまざあずカフェ</li> <li>・フードバンクを活用した、ドライブスルー形式の食料・日用品配布および宅配「子ども宅食」</li> </ul> </li> <li>◎子どもへのオンライン学習支援および、悩みや不安を感じている親の相談窓口             <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット&amp;wifi貸与によるオンライン学習支援</li> <li>・相談窓口設置、精神的な安定による自立をめざす</li> <li>・スタッフ研修（子ども・DV被害者支援）</li> </ul> </li> <li>◎親子の自立をめざした、安全安心の居住空間の提供             <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子ための共同住宅（ステップハウス）整備</li> </ul> </li> <li>◎多様な主体による支援体制の仕組み構築 等</li> </ul>
--------	---

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>新型コロナ感染の長期化、2度の緊急事態宣言により本事業のニーズは予想を超えた。3つの柱を掲げ、「食べる」は、コロナ感染の子ども食堂&amp;カフェは開設しなかったが食料支援を毎月行い、当初設定の4倍以上の延べ1047世帯に物品を提供。配送も当初設定の2倍以上の202世帯に送った。（10月～2021.9月子ども食堂の代わりに手作弁当を配布。当初設定の倍以上の延べ619名へ配布）「学ぶ」は、生活困窮家庭の子どもに向けたオンライン学習を6～11名の子どもへ提供。当初設定の20名を下回った原因として、チラシを配布したが特にコロナ禍で仕事や生活にゆとりがないひとり親が子の学習に寄りそう時間不足が挙げられ、結果利用の伸びが悪かったと考えられる。「暮らす」では、居住の整備、親子の経済的・精神的自立に寄りそった居住空間を当初設定の2倍の4世帯に提供。その内2世帯が完全自立を果たした。相談業務では当初設定を上回り延べ600件の相談を受けた。内容は生活家計相談、子どもの発達、離婚調停等多岐に渡りコロナの影響による世帯収入減やDV等の理由で行政より問い合わせや紹介の子育て家庭も増え、改めて多様な主体による持続可能な支援の仕組み構築の重要性を認識した。</p>
-------------------	---

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	食料関連の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「おなか一杯食べる幸せ」食べた時に食べるものがある「安心感」の提供～食で繋がることで信頼関係を築き、日常抱えている課題を共に解決する～</li> <li>・共生型子ども食堂(月1回)</li> <li>・しんぐるまざあずカフェ(月1回)</li> <li>※開催できない場合ドライブスルー形式のフードパントリー・弁当配布</li> <li>・宅配「子ども宅食」(月1回)</li> </ul>	<p>子ども食堂：延べ300名 食料配布：延べ250世帯 宅配：80世帯</p>	<p>子ども食堂延べ300名 食料の配布延べ250世帯 宅配「子ども宅食」80世帯</p>	<p>子ども食堂開催せず 食料配布：延べ1047世帯 宅配：延べ202世帯</p>	<p>コロナ感染の長期化により子ども食堂が開設できず、日常抱えている課題を共に解決する場が減ってしまった。しかし直ぐにフードパントリーにシフトし何とか今までの利用者との繋がりを継続しつつ経済的・精神的支援を行うことができた。</p>
子ども・学生	学習機会の不足/格差	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎オンライン学習支援及び生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口</li> <li>・オンライン学習支援において、動画作成講師を増員し、現状の利用家庭数を増やす。また、オンラインの仕組みを使った親の相談を行う。</li> </ul>	<p>端末の貸し出し20世帯 親の相談：延べ60件</p>	<p>オンライン学習：20世帯 親の相談：延べ60件</p>	<p>端末貸し出し：最終9世帯 (受講生11名) 親の相談：生活・家計相談の欄に含む</p>	<p>予定受講者数は達成できなかった。当初はフードドライブの登録世帯の小6、中3、高3にターゲットを絞り優先的に募集したが受講者数の伸びが少なく、後期に入り登録者全学年に向けて募集チラシを配布した。その結果、9月には受講生が5名増え、苦手な教科や大好きな教科をオンライン動画で学習してもらうことができた。他人とのコミュニケーションが苦手な不登校児には、直接対面しないタブレットによるオンライン学習は「緊張せず学習ができる」と好評であった。また、急遽決めた大学を受験する為試験に必要な科目を講師とオンラインでやり取りし、短期間で無事合格することができた世帯からは感謝の言葉が届けられた。市内学校のスクールソーシャルワーカーにオンライン学習の情報提供を行ったため必要な世帯に勧めてもらったことができた。親の学習面の相談は、オンライン学習のグループLINEでタイムリーに行なったため喜ばれた。多くの成果の中、それでも目標数に届かなかった理由として、兄弟で受講を希望しても1世帯1台のタブレットをシェアしてもらったため、兄弟間の勉強の時間配分が難しいかったこと、また、特にコロナ禍で仕事や生活にゆとりがないひとり親が子の学習に寄りそう時間がないという現状、他市の母子支援員からの紹介で繋がった世帯にオンライン学習を勧めたが保護者は「子どもは勉強がきらい」と受講を断った。しかし、実際は子どもながらに家計を心配し自分の将来をあきらめざるをえなかったという事実を知り、子どもが自分の置かれた環境により未来への夢や希望を捨てることのないよう、衣食住における心配事や困りごとにも行政や支援機関等と連携し、身近な存在としていつでも相談に乗れる体制を整え、解決に向けた柔軟な支援体制の構築が急務であると改めて感じている。</p>
ひとり親	相談先の不足	<p>生活・家計相談</p>	<p>家庭の生活・家計相談：延べ500件</p>	<p>生活・家計相談：延べ500件</p>	<p>生活・家計相談：延べ600件</p>	<p>相談内容は生活家計相談、子どもの発達、離婚調停等多岐に渡った。コロナの影響による世帯収入減やDV等の理由で行政より問い合わせや紹介の子育て家庭も増え、必要に応じて裁判所同行や弁護士との話し合い同行も行い不安の中暮らしている相談者に寄り添い解決に向けてのサポートを行うことができた。子育て世帯を支える為には各種関係機関とのゆるやかな横の繋がりの必要性重要性を改めて感じている。</p>
その他	居場所の不足	<p>親子の経済的・精神的自立を目指した、安全安心な居住空間の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人が運営する母子のための共同住宅シェアライフ「ハーモニーはうす」(ステップハウス)の風呂増設・トイレの改修・住環境の整備</li> <li>・DV被害を受けた母子家庭を年間受け入れ、自立に向けた支援を行う。</li> </ul>	<p>入居2世帯+退居2世帯</p>	<p>入居兼自立準備母子2組+完全自立母子2組</p>	<p>入居兼自立準備母子4組 完全自立母子2組</p>	<p>受益者：ひとり親(母子)・DV被害者・高齢者(女性) 当法人の運営するステップハウス「ハーモニーはうす」の施設改修を行い、安全安心な居住空間を提供することができた。DV被害者が心と身体を休めつつ人生の次のステップに移るサポート並びに退去後もフードドライブにて継続したサポートを行うことができています。</p>

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	どのような環境でも子どもたちが豊かな成長・発達出来る地域社会をめざし、「食べる」「学ぶ」「暮らす」の3本柱を充実、拡大させ子どもの育ちをサポートする。また、ひとり親やDV被害の母親に対しても必要な情報を提供し寄り添った相談支援が行なえるよう担当スタッフの研修は随時行う。また、行政・企業・専門機関と連携し、複合化・複雑化する家庭の困りごとをワンストップで受けられる仕組みを構築し、支援体制を強化する。
考察等	本事業の3本柱「食べる」「学ぶ」「暮らす」を充実・拡大するためにはまずは、さまざまな機関に本事業を知ってもらうことが重要と考え、FBや新聞社、地元のケーブルテレビ等を利用し発信を行なったため、地域への周知が以前と比べてできたと感じている。本事業を継続していくために専任スタッフの養成を行いき細かいサポートができれば今以上にニーズや課題も掘り下げることができるのではないかと考える。また、今後は行政・企業・専門機関との連携が不可欠であると考え。必要であれば各機関が把握している情報を共有するケア会議を行政担当課を通して開き、それぞれの強みを活かした支援体制を構築していく。

V. 活動

活動	進捗	概要
「おなか一杯食べる幸せ」、食べたときに食べるものがある「安心感」の提供	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フード&amp;ライフドライブ活動「てとて」は毎月第4日曜日に行ない、月を追うごとに登録世帯は増加していった。新型コロナ感染拡大の長期化により、仕事の時間を減らされ収入が減り、その影響が毎日の食事にも影響しているようである。日曜日に働いている母親も多く、仕事等で来訪できない世帯は平日にフードパントリーを行なった。また、こども食堂の代わりに手作り弁当を配布したが、地元伝承の弁当(まつり寿司)は親子に喜ばれた。</li> <li>・遠方や車の免許のない子育て家庭には段ボールに事前にヒヤリングして必要な食料日用品を詰め配送した。利用者からは子どもの写真や、子どもの書いた絵や、感謝の手紙が送られた。</li> </ul>
オンライン学習支援および生活の悩み、不安を感じている親の相談窓口	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン学習は3名の講師によってオリジナル動画がタブレットに配信した。子どもたちは自分の学習したい箇所の動画が送られ楽しく勉強していた。直接コミュニケーションを取るのが苦手な受講生にとっては画面上で先生の授業を間接的に受けることができる為、ストレスを感じることなく自宅楽しく授業を受けることができた。また、不登校経験のある受講生は学び直しができるという特典がある。</li> <li>・親からの相談は面談、電話、メール、LINEなどで受け付けた。フードパントリー時にも簡単なものから複雑なものまで相談があった。担当スタッフは相談者に寄り添い、なじみの関係になることで信頼度が上がり、真の困りごとを聞き、必要であれば専門機関に繋ぐこともできた。</li> </ul>
親子の自立をめざした、安心安全な居住空間の提供	ほぼ計画通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップハウス『ハーモニーはうす』の母屋の各部屋の扉改修。母屋・離れのトイレ改修。離れのバス改修。</li> <li>・入居前・入居中・退去後のすべてにおいて相談、専門機関への同行等も行った。</li> </ul>

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特になし
---------------------	------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>コロナの長期化により、毎月行っていたこども食堂が開催できず、「一緒においしいご飯を食べることで信頼関係を築き、日常抱えている課題を共に解決する」といった関わりができない。しかし、フードパントリーを毎月行い、挨拶をしたり話すことで笑顔が生まれ、少しずつなじみの関係が生まれてきた。すると、今まで語らなかった日常的な悩みや想いを話してくれる家庭が増えた。つながるツールとしてLINEも選択肢の一つに加えたことで、より気軽に家庭内の問題や悩みを話しやすくなった。オンライン学習は、フード&amp;ライフドライブ活動「てとて」の全登録世帯の子どもに向けてチラシと声掛けで周知したため、少しずつ問合せが増えていっている。また、SSWにチラシを持ってもらい担当の各学校にお知らせしてもらったことで学校の先生からの問い合わせもあった。</p> <p>食でも学習でも居住でも「必要なものが必要な人に届く」ことは今後の活動においてとても重要である。この仕組みを創るためには、行政が仲介役となり、企業・各支援機関が横のゆるやかなつながりで、どんな世の中にも対応できる支援体制の構築が必要である。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
学校・SSW・保育園・社協・子育て支援課・当法人	ケア会議開催。それぞれが持っている親子の情報を共有し、その家族へのきめ細かい支援につなげることができた。
こどもステーション	面会交流についての情報提供を受けた。ひとり親への適切な支援を行なうことができた。
学習広場笠岡	オンライン学習の実施。面談から日々のオンラインによる動画配信まで担当スタッフとLINEで細かく連絡を取り合っているため、受講生が必要としている学習が学べている。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	11,574,931	11,576,107	100.0%
	管理的経費	2,425,069	2,425,069	100.0%
合計		14,000,000	14,001,176	100.0%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	山陽新聞(2021.6.29)・中国新聞(2021.2.27)・経済新聞(2021.6.28)・笠岡放送ケーブルテレビ・FMゆめウエーブ・ヤフーニュース 等
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	「いのちまるごとプロジェクト」リーフレット(15000部) フード&ライフドライブ活動「てとて」ちらし(5000部) 学習支援用生徒募集ちらし(500部)・講師募集ちらし(200部)
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	「いのちまるごとプロジェクト」リーフレット(15000部) 学習支援用生徒募集ちらし(500部)・講師募集ちらし(200部) 「離婚・別居を考えているお父さん・お母さんへ」リーフレット(10000部)
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	